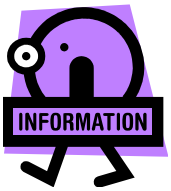
遊絲

No. 36

2015−6−14

日本蜘蛛学会



インフォメーション

日本蜘蛛学会 第 47 回大会 (2015 年度)のご案内

日程：2015 年 8 月 22 日(土)・23 日(日)

［役員会を 21 日(金)午後に開催］

8 月 22 日(土)　10:00～

一般講演，ポスター発表など

総会，懇親会

8 月 23 日(日)　10:00～

一般講演など

会場：京都女子大学

(京都市東山区今熊野北日吉町 35)

問い合わせ先

京都女子大学

中田兼介　nakatake@kyoto-wu.ac.jp

申し込み等の詳細は別途送付されている大会案内をご参照ください.

同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容，採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する．興味を持たれた方は入会したり，行事に参加されてはいかがでしょうか.

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）

会報「蜘蛛」を年 1 回,「まどい」を年 3 回発行．採集会を年 2～4 回．総会・研究会を年 1 回実施.

蜘蛛（KUMO）47 号(2014 年 10 月発行)

貞元巳良：富士山のクモ

貞元巳良：長野県高峰高原のクモ

矢部寛延・片山詔久：ジョロウグモの横糸の分子構造研究

貝發憲治：単眼欠如のクモ

塩崎哲哉：石垣島・西表島探蛛行

クモなぞなぞ

セミを捕まえられないオニグモは

な～んだ？　（出題：須黒達巳）

答えはギャラリーのコーナーで

池田博明：クモの幼体の記録と撮影
吉田　真：比叡山のクモ類１
緒方清人:愛知県内におけるツシマトリノフンダマシの記録
緒方清人：愛知県知多郡美浜町奥田のクモ類
緒方清人:愛知県三河地方におけるセアカゴケグモの現況
緒方清人：愛知県産クモ目録　追加種（VI）
緒方清人：クモを捕らえた野鳥の記録
柴田良成：越冬する蜘蛛－３
　短報
柴田良成：名古屋市内でトゲグモを発見
益田和昌：本州にて採集されたヤスデ
杉山時雄:ハツリグモの網に入るクロマルイソウロウグモ
　追悼　清水善夫氏
須賀瑛文：第一代代表　清水善夫氏に捧ぐ
村上　勝：清水善夫さんとのこと
太田定浩：清水さん ありがとうございました
益田和昌：清水善夫さんを偲んで
柴田良成：先生の形見
緒方清人：清水善夫さん 本当にありがとうございました
故清水先生を偲ぶ
　総会・研究会・採集観察会等報告

採集観察会
2015 年 6 月 20 日（土）トヨタの森　P5 駐車場　午前 10 時集合　担当：大原満枝・杉山時雄
7 月 25～26 日三重クモ談話会との合同合宿　恵那市にて，詳細は後日連絡．担当：須賀瑛文・柴田良成・緒方清人
8 月（未定）子ども観察会 名古屋市内 担当：筒井明子・柴田良成
9 月（未定）名古屋市内　担当：須賀瑛文
10 月 4 日(日)大高緑地公園　担当：緒方清人

総会・研究会は 2016 年 2 月 11 日(祝)
入会申し込み他
全般について
〒472−0022　知立市山屋敷町東山 10−6
緒方清人（代表）
Tel　0566−83−4474
E-mail:neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など
〒451−0066　名古屋市西区児玉 1−8−24
柴田良成（会計）
Tel　052−522−1920

会費
正会員　年 3000 円（高校生以下 1000 円）
準会員　「まどい」のみ 1000 円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）
会報「KISHIDAIA」を年 2 回,「談話会通信」を年 3 回発行．採集会年 4 回・合宿年 1 回・総会例会などを年 2 回実施.

今年度の採集会は，渋沢丘陵で行います.
　7 月 12 日(日) 10 月 18 日(日)
　2 月 21 日(日)
小田急線渋沢駅改札口午前 10 時集合
世話人：水沢栄子
連絡先：水沢携帯 090-6143-6942

合宿は 7 月 25 日（土）から 27 日（月）に山梨県南巨摩郡で実施　世話人：加藤輝代子
申込みは Kiyoko_kato@tce.ac.jp まで

〆切 6 月 20 日.

例会は，11 月下旬あるいは 12 月上旬の日曜日 10 時より東京環境工科専門学校で実施.

KISHIDAIA 106 号（2015 年 2 月発行）

奥村賢一：ワスレナグモ幼体移動分散の観察

池田博明：『クモは虫を食べる』の構想

新海　明：中平清先生遺稿「土佐のクモ」(1) ヨリメグモ

貞元己良：茨城県潮来市の合宿に参加した

池田博明：クモの会会報から再録 II 中島晴子さんの観察会報告と参加の記録

井上尚武：茨城県のイソコモリグモ(2) 津波被災後の海岸で生息を確認

ＤＲＡＧＬＩＮＥＳ

池田博明：庭石 1 個の周囲に 57 個のジグモ巣

吉田　哉：小笠原諸島母島採集記録

笹岡文雄：佐賀県佐賀市におけるクモ類の小記録

馬場友希・大澤剛士：沖永良部島・与論島で採集されたクモ

馬場友希：青森県弘前市周辺で採集されたクモ

馬場友希・馬場まゆら：東京大学西東京フィールドの水田内で採集されたクモ

市川武明：奈良県で採集したクモ

市川武明：埼玉県で採集したクモ

谷川明男・新海　明：2014 年イソコモリグモの旅

輿石紗葉子：渡良瀬遊水地で採集したクモ

谷川明男・貞元巳良：神奈川県まで広がったシマゴミグモの分布域

井上尚武：茨城県におけるワスレナグモの新産地

井上尚武：茨城県におけるコガネグモとコアシダカグモの記録

井上尚武：茨城県のキクメハシリグモの記録

笹岡文雄：北海道苫小牧市におけるクモ類調査報告

追悼　八幡明彦さん

池田博明：八幡明彦氏　談話会活動および蜘蛛学会活動の記録

池田博明：お別れの言葉

笹岡文雄：八幡さんとのこと

野村育世：一期三会の大切な友・八幡明彦さん

本多佳子：追悼　八幡明彦さん

井上尚武：八幡明彦さんを悼む ― 三陸復興支援とイソコモリグモ ―

須黒達巳：終わらない話

馬場友希：*Marpissa yawatai*

萩野康則：「八幡さん＝でっぷりとしたオタクっぽい人」という私の想像は全く見当違いだった

谷川明男：またどこで何やってんだか　まあ，好きにしてくれよ

池田博明：「サムライ・スパイダーズ」　字幕台本の紹介

池田博明：イシガキアオグロハシリグモのオスを卵から育てあげた八幡さん

入会申し込み

〒186-0002　東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105　（有）エコシス

初芝伸吾　（事務局）

Tel　042－501－2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費　年 2000 円（学生 1000 円）

2015 年度より値下げします.

関西クモ研究会（会長：田中穂積）

会報「くものいと」を年 2 回発行．採集会・研

究会例会などを年数回実施.

くものいと 48 号（2015 年 3 月発行）

関根幹夫：奈良県内のトタテグモ類の新産地

関根幹夫:カバキコマチグモとミドリアシナガグモを奈良県で確認

関根幹夫:チュウガタコガネグモは山地性のクモなのか？

本多佳子:アダンソンハエトリ　チェコへ行くアダンソンハエトリの長旅　海外に蜘蛛をおくってみた！

加村隆英：青いジョロウグモ？

赤松史憲:セアカゴケグモ報告　その２　－和歌山県橋本市－

関西クモ研究会採集会の記録（2014 年度）

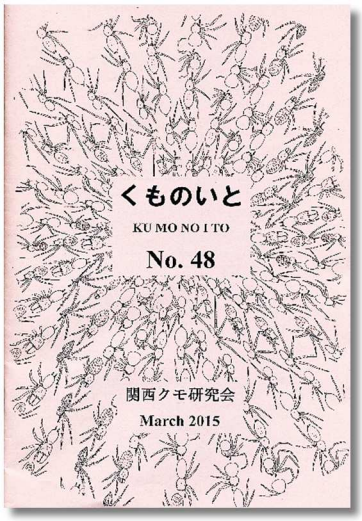
採集会

2015 年 9 月 27 日（日）

天王山　JR　阪急　山崎駅　改札口　10 時 30 分集合

例会

2015 年 12 月 20 日（日）



大阪市立自然史博物館で開催予定

入会申し込み

〒567－8502　茨木市西安威 2－1－15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel：0726－41－9550（加村研）

Fax：0726－43－9432（大学教務課）

会費　年 1000 円

三重クモ談話会（会長：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年 1 回発行. 採集会・合宿・例会などを年数回実施.

しのびぐも 42 号（作成中）

採集会

6 月 7 日（日）津市久居明神町～津市神戸の里山

7 月 25 日（土）・26 日（日）中部蜘蛛懇談会との合同採集会　岐阜県恵那市にて

9 月 6 日（日）津市久居明神町～津市神戸の里山

10 月 18 日（日）津市久居明神町～津市神戸の里山

を予定していますが, 実施を含めて現在検討中

2016 年 2 月 20 日（土）　反省会・学習会　松阪市日野町カリヨンプラザ

詳しくは会のホームページをご参照ください.

参加希望者は事務局（貝發）まで連絡してください

入会申し込み

〒515－0087　三重県松阪市萌木町 7－4

貝發憲治　（事務局）

Tel（Fax）0598－29－6427

mail：kumo@mctv.ne.jp

会費　年 2000 円

東京クモゼミ

毎月 1 回，第 1 土曜日に千葉県市川市の加藤宅で開催．会費などなく誰でも参加できる．

連絡先　新海　明　042-679-3728

または，加藤輝代子　047-373-3344

関西クモゼミ

会費などなく誰でも参加できる．

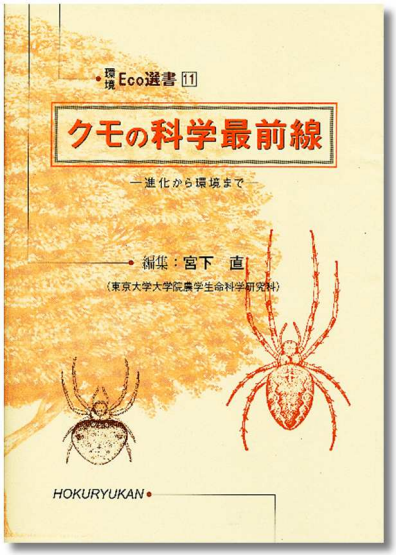
連絡先　吉田　真　077－561－2660

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる．入会の申し込みは e-mail で馬場友希まで．

ybaba@affrc.go.jp

新刊紹介



クモの科学最前線

宮下　直編集

252p　ISBN　978-4-8326-0751-3

3780 円（税込）北隆館

クモハンドブック

馬場友希・谷川明男著

112p　ISBN　978-4-8299-8128-3

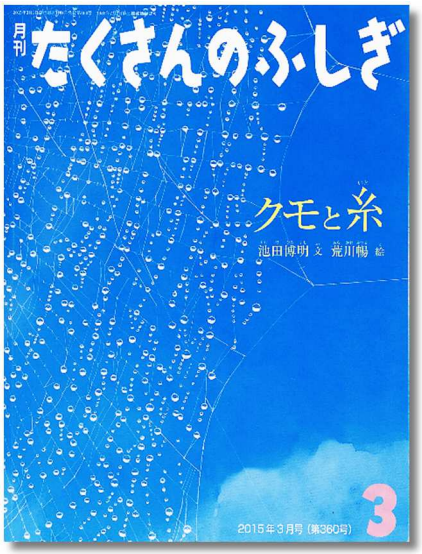
1620 円（税込）文一総合出版

クモ基本 60

東京蜘蛛談話会

144p　ISBN　978-4-9908273-0-4

1000 円東京蜘蛛談話会



クモと糸

池田 博明（文）・荒川 暢（絵）

たくさんのふしぎ 2015 年 3 月号

40pp.　雑誌コード 15923

本体 667 円　福音館書店

特集　クモ研究の現在

生物科学　66 巻 2 号（2015 年 3 月）

日本生物科学者協会

販売：農山漁村文化協会（農文協）

言いたい！聞きたい！

クモ学セミナー 第2回　カバキコマチグモの母親食い

池田博明

カバキコマチグモの子グモが生きたままの母親を食ってしまうことは，日本ではクモに興味を持ったひとのほとんどが知っている事実ですが，この有名な行動は意外に外国では知られていないようです．

母親食いの報告

フェーリクスの『クモの生物学 Biology of Spiders』第 3 版（2011）に「母親食い matriphagy」として挙げられているクモと参考文献は，ガケジグモの一種 *Amaurobius ferox*（Bristowe 1958; Kim et al. 2000），ギョウジャグモの一種 *Diaea eregandros*（Evans et al. 1995），イワガネグモの数種 *Stegodypus* spp.（Jackson and Joseph 1973; Schneider and Lubin 1997），そして日本のカバキコマチグモ（Toyama 2001）です．第 2 版には母親食いの記述がありませんでした．Toyama（2001）とはどんな文献なのかと，文献表を見てみますと，なんと載っていません！また，文献として挙げられている Bristowe の『World of Spiders』（1958）に載っている死んだ母親を子グモが食べるという種 *Amaurobius terrestris* は，現在はガケジグモ属ではなく，ヤチグモ属の一種コモリヤチグモ（仮称）*Coelotes terrestris* です［図 1 参照］．英国蜘蛛学会のウェッブの説明では，母

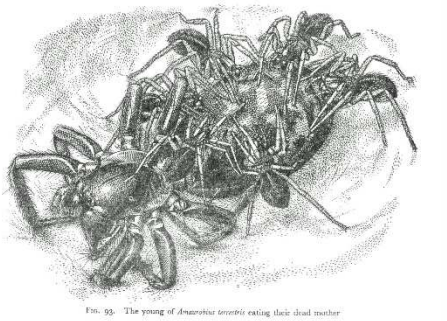


図 1．コモリヤチグモ（仮称）*Coelotes terrestris* の子グモが死んだ母親を食べる---Bristowe(1958)

親が死ぬと子グモはそれを食べ, 早春に分散していくと記されています.

フェーリクスには, 伊藤千都子のヒメグモの記録「死んだ母親を子グモが食べた」(Ito 1985) は拾い上げられていません. ただ, 伊藤のヒメグモの飼育実験は室内で水槽に閉じ込めた状態の事実なので不自然です. 子育ての時期も冬にかかっており, 遅すぎます. 野外では晩夏または初秋に子グモは分散していき, 死亡した母親も食われません (石本・金田・池田 2005).

カバキコマチグモの母親食い，最初の観察

カバキコマチグモの母親食いに関する日本で最初の観察は植村利夫によるものです(植村 1940)．植村は「昭和 14 年 7 月 24 日，井之頭公園で百数十頭の子グモが母グモを食うのを初めて観察」と報じていました[図 2 参照]. これは日本のみならず, 世界で初めてのクモの母親食いの観察でした. そのとき植村と一緒に観察した片岡佐太郎は雌の卵室をクモごと持ち帰り, 保持して毎日観察し, 植村と同じ事実を確認して理科教育誌上に報じました（片岡 1939). これが母親食いが印刷された最初の記

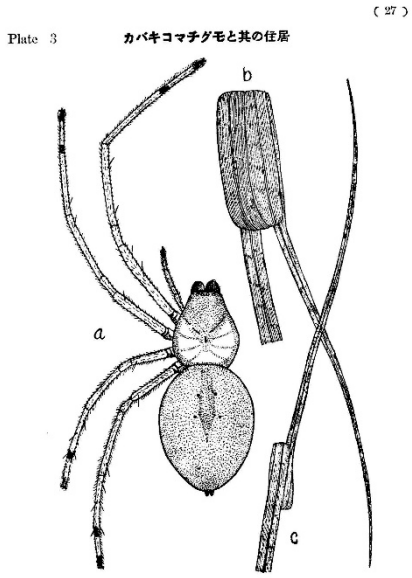


図 2. カバキコマチグモのメスと住居巣---植村（1940）

録です. それらを参考にして関口晃一はカバキコマチグモの図の説明に「初夏の候主として禾本科植物の葉を折りて住居を作り, 8 月末に産卵す. 母グモはふ化せる子グモの餌食となる奇習あり．北海道・本州・四国・九州・満洲に分布」と書きました（関口 1941).

信用されなかった母親食いの習性

母親食いはあまりにも特異な習性だったため，信用されませんでした．植村自身,「わたしがこのカバキコマチグモの奇抜な習性を学界に報告した時も, はじめはだれもそれを信じてくれなかったのは当然のことだと思う. 日本ではまもなくそれを真実として認めてくれたが, 外国の学者が本気でこれを信ずるようになったのはやっと最近のことである.」「以上はわたしの三十四年間にわたるクモ研究の中で最も印象の深いものの一つである」と記しています（植村 1964).

八木沼健夫（1955）もまた「未だ海外では殆どこのような報告は見ないし，又国内に於いても一般には余りに知られていず，学者間に於てもこの習性に疑問を持つ者あり，殊に事実を見ていない者は理論的に否定する傾向にある．筆者自身も見ない内は肯定も否定も出来ず，上記三氏の記事を紹介する程度であったが，その後しばしばこれを目撃し又最近その現場を写真をとることが出来た」と慎重な姿勢だったことを証言しています．八木沼は自身の観察をふまえて，保育社の『原色日本蜘蛛類大図鑑』に「ふ化した子グモは第 1 回の脱皮を終わると母親のからだにかじりつき体液を吸う．親は自己の体を子グモに与えて死んでゆく」と記述しました（八木沼 1960，1968）．自身も母親食いを観察していた中平清（1966）が監修した学研の図鑑『クモ』（1976）には，「子が親を食うクモは世界中でこのカバキコマチグモ 1 種類しか知られていない」と記され，写真も載せられています．千国安之輔の児童書『クモの親と子』（1980）には詳しく母親食いの生態が書かれています．この本の出版前後に千国の指導でNHKがカバキコマチグモの母親食いを撮影したそうですが，あまりにも残酷な映像で放映中止になったと，千国が残念そうに話していたことがあります．

しかし，吉倉眞は『クモの不思議』（岩波新書 1982）に子グモの母親食いについて，「ヤチグモのある種 *Coelotes terestris* は死んだ母親を食べる．このような子育てをするクモが，トタテグモ，イワガネグモ，ガケジグモ，ヒメグモなどの仲間にもいくらかいるが，日本にはいないようである」と書き，大著『クモの生物学』（1987）でも母親の世話や吐き戻し給餌，母親食いには触れませんでした．

子グモはいつ母親を食べ始めるのか

八木沼健夫は「ふ化した子グモは第 1 回の脱皮を終わると」と書きましたが，新海栄一は「子グモはふ化後，第 2 回脱皮がすむと親グモを食べる」（新海 1984）と記したり，「卵は約 10 日で孵化し，子グモは数日間，親グモの周りに集まっている．第 1 回目の脱皮がすむと，子グモは一斉に親グモの体に食いつき，早くて 3～4 時間，長くても半日で親グモを食べてしまう」（千国 1980；新海 1987）と記したりしています．ちまき状の葉のなかで行われる発育なので，観察が困難なようです．中平清（1966）は，産卵後，約 1 週間で母グモが卵嚢の上面をかみ破ったときにはまだ卵だが，2 週間目に卵嚢が拡嚢されたときには子グモが誕生している，3 週間目に子グモは脱皮する．全個体の脱皮は 2 日で終わる．脱皮後 1～2 日して母グモの体にとりつき，それを吸う．子グモは親を食った後，だんらんしているが，約 1 ヶ月後次々と分散していくと観察していました．また，中平清は拡嚢時期に母親を取り去ると，後で脱皮後に母親を戻しても親に食いつかないという実験をしています．その場合には子グモは早く（普通より 3 日早い）分散します．中平は，親から離されると親を食う動因は消失するようだと考察しています．

多くのクモは産卵後約 10 日で孵化，それから 4 日めで第 1 回めの脱皮をして 2 令幼体となり出嚢，さらに数日間まどいをした後に第 2 回目の脱皮をして 3 令幼体（若虫）となります．発生スケジュールからの推測では，産卵後 1 ヶ月がたてば，3 令幼体（若虫）になっていると考えられます．カバキコマチグモに関しては卵室内での脱皮回数に関してははっきりしない点があるようです．

母親食いと子殺し

カバキコマチグモは卵嚢を 1 個しか作りません．母親食いをする種類は原則ワン・クラッチです．亜社会性のムレイワガネグモ *Stegodyphus lineatus* でも普通はワン・クラッチで母親は子グモに食べられてしまいますが，母親がガードしている卵嚢を成熟が遅れたオスが奪い取って交尾した場合には，メスは二番目の卵嚢を産卵するそうです．この現象はオスによる子殺しといえます．クモの場合には，既に先オスの精子によってメスが受精嚢内に持つ卵はほとんど受精させられているかもしれませんが，二番目の卵嚢には後オスの精子が多少は使われる可能性があります．ただし，無理やり卵嚢を奪われた場合には自然に失った場合に比べて二番目の産卵までの時間は長くかかるそうです．また，産み出された卵嚢は元の卵嚢よりも小さく卵数も少ないそうです（Schneider and Lubin 1997）．

利己的な遺伝子（selfish gene）の文脈で考察すると，オスの子殺し（infanticide）は父親の遺伝子を残そうとするオスの戦略と考えられますし，母親食い（matriphagy）は母親の遺伝子を残そうとするメスの戦略と考えられます．

親子間の寛容は体表化合物に原因がある

究極要因が利己的な遺伝子の文脈で考察できたとして，親子間・同胞間の攻撃行動・寛容行動の至近要因はいったい何でしょうか．30 年ほど前には糸による振動信号ではないかと考察されていました．しかし，近年はアリが敵味方を体の匂いで見分けるように，体表クチクラの化合物の構成成分にその原因を求める研究が相次いでいます．ちなみに，過去に糸の振動，現在は微量な化合物という観点の差は分析機器の発展によってもたらされた違いだと思います．ガスクロや NMR が発達していなかった頃は，微量な化合物の分析は不可能でしたから．

フランスのトラバロン Trabalon（2013）のレビューによると，彼女たちはイエゴミタナグモ（仮称．英名 Dust spider）*Tegenaria atrica* で，親子間の寛容および攻撃行動に体表化合物が関連していることを見い出しました（Trabalon et al. 1996, 1998）．子グモどうしが集団で寛容であり，母子間も寛容なときには母親の体表に特徴的な 5 種類の炭化水素化合物（n-エイコサン，2-メチルヘキサコサン，n-オクタコサン，n-ノナコサン，n-トリトリアコンタン）が子グモのクチクラ上にも見られます．孵化後 20 日令を過ぎますと，子グモはお互いを避けるようになり始め，クチクラ上の化合物も変化し始めます．最終的には，2 種類の新物質（5-メチルヘントリアコンタン，メチルオクタデカディエノエート）が放出され，4 種類の異なった化合物（n-オクタデカン，n-オクタコサン，オクタデカディエノーイック酸，オクタデセノーイック酸＝オレイン酸に類似）が生合成され，放出されます．とはいうものの，このような変化は子グモどうしの寛容の停止を完全に説明できるものではありません．分散段階の間も化合物は変化し，その間に子グモどうしの共食いも起きますが，それには孤立相の処女メスに特徴的な 4 種の化合物（メチルオクタデカノエート，n-トリコサン，n-ペンタコサン，n-ヘプタコサン）が関連しています．分散後は子グモのクチクラ化合物はまったく変わっています．母子間の攻撃行動に接触化学刺激情報はたいへん重要な役割をしています．メ

スの共食いは極性化合物（メチルエステルと脂肪酸）の増加及び非極性化合物（炭化水素）の減少と関連しているように思われます. 他にもムレイワガネグモ *Stegodyphus lineatus* やコモリヤチグモ *Coelotes terrestris* でも同様のクチクラ化合物と攻撃と寛容行動のスイッチングが研究されています（Trabalon 2013）.

日本にはカバキコマチグモの母子間関係とクチクラ化合物という魅力的な研究対象があるのにも関わらず, 取り組むひとがいないというのも不思議な話です. セスジガケジグモの亜社会性も同様です.

引用文献

石本舞・金田愛美・池田博明 2005. ヒメグモの生活史を探る(1)母親食いは無かった. Kishidaia, 88:35-47.

植村利夫 1940. 親を食う蜘蛛 Acta Arachnol., 5: 25-30.

植村利夫 1964. クモの母性愛と天敵. 科学読売, 16 : 64-66.

片岡佐太郎 1939. 理科教育, 8 : 60-61.［見ていません］

新海栄一 1984. フィールド図鑑クモ. 東海大学出版会.

新海栄一 1987. クモ基本 50. 森林書房.

関口晃一 1941. 日本蜘蛛類図説（第 3 輯）Acta Arachnol., 6: 7-8.

千国安之輔 1980. クモの親と子. 偕成社.

中平清 1966. 繁殖活動期に於けるカバキコマチグモ. Atypus,41/42: 15-36.

八木沼健夫 1955. コマチグモの親を食う習性について. 生物研究, 2（1）: 40-41.

八木沼健夫 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 保育社.

八木沼健夫 1968. 原色日本蜘蛛類大図鑑増補改訂版. 保育社.

吉倉　眞 1982. クモの不思議. 岩波書店.

吉倉　眞 1989. クモの生物学. 学会出版センター.

Ito, C. 1985. Brood-care behavior in *Theridion Japonicum* observed at a laboratory. Acta arachnologica, 34:23-30.

Schneider and Lubin.1997. Infanticide by males in a spider with suicidal maternal care, *Stegodyphus lineatus* (Eresidae). Anim Behav., 54(2):305-12.

Trabalon, M. 2013. Chemical Communication and Contact Cuticular Compounds in Spiders. IN Nentwig ed., Spider Ecophysiology. 125-140.

Trabalon, M., AG. Bagneres, N. Hartmann and AM. Vallet, 1996. Change in cuticular compounds composition during the gregarious period and after dispersal of the young in *Tegenaria atrica* (Araneae, Agelenidae). Insect Biochem. Mol. Biol., 26: 77-84.

Trabalon, M., G. Pourie and N. Hartmann, 1998. Relationships among cannibalism, contact signals, ovarian development and ecdysteroid levels in *Tegenaria atrica* (Araneae, Agelenidae). Insect Biochem. Mol. Biol., 28: 751-758.

採集情報

日本各地で採集された稀産種や, 都道府県初記録, 島初記録, 南限更新, 北限更新など分布

上の重要情報について掲載する．これを読み，「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい．

【このコーナーに掲載する記録は，証拠標本か，同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます．目撃談のみのものにつきましては取り上げません．また，幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが，とりあえず現段階では，参考記録として掲載を継続させていただきます．】

ヤマトガケジグモ　沖縄県西表島豊原 2014 年 12 月 15 日　1 幼体（飼育後オス成体）　谷川明男採集・同定

イワワキアシブトヒメグモ　埼玉県比企郡滑川町山田　2013 年 8 月 4 日　1♀　市川武明採集・谷川明男同定

オキツハネグモ　福岡県福岡市東区箱崎　アパート内の浴室　2014 年 12 月 13 日　1♂　小松　貴採集同定・馬場友希写真で確認

カトウツケオグモ　栃木県茂木町鎌倉山 2011 年 11 月 22 日　1♀　中山恒友採集同定・馬場友希確認

クマドリハエトリ　茨城県鹿嶋市田野辺 (36.006398N, 140.608123E)　2015 年 5 月 20 日　1♀　馬場友希採集同定　川口市差間川口自然公園　2013 年 7 月 31 日　1♂　新井浩司採集同定　2014 年 4 月 6 日　1♀　市川武明採集・新井浩司同定

ヒメヨリメケムリグモ　千葉県香取市牧野 (35.875194N, 140.490047E)　2015 年 5 月 20 日　1♂　馬場友希採集同定

スズミグモ　栃木県鹿沼市栃窪生きがいの森 2014 年 8 月 31 日　1♀　山野井貴浩採集・馬場友希同定

ミヤシタイソウロウグモ　栃木県塩谷郡塩谷町風見山田 (36.739283N, 139.853146E) 2013 年 5 月 16 日　1♂　馬場友希採集同定

クロツヤハエトリ　茨城県つくば市妻木 (36.110822N, 140.1068512E)　2014 年 7 月 2 日　2♀　坂井　誠採集・馬場友希同定

ワクドツキジグモ　埼玉県飯能市上直竹 2015 年 3 月 5 日　1 幼体　近藤　昇採集・新井浩司同定・情報提供：田島良久

オビジガバチグモ　山梨県笛吹市一宮町坪井 2014 年 4 月 3 日　1♀　市川武明採集・新井浩司同定

コミナミツヤハエトリ　東京都あきる野市横沢入　2014 年 9 月 14 日　1♀　市川武明採集・新井浩司同定

シャラクダニグモ　埼玉県川口市差間川口自然公園　2013 年 7 月 31 日　♂♀　新井浩司採集同定

タイリクテングヌカグモ　埼玉県川口市差間川口自然公園　2013 年 7 月 31 日　1♀　新井浩司採集同定

ヨシシャコグモ　埼玉県川口市差間川口自然公園　2013 年 7 月 31 日　1♀　新井浩司採集同定

チクニハエトリ　埼玉県川口市差間川口自然公園　2013 年 7 月 31 日　1♀　新井浩司採集同定

カズサハイタカグモ　埼玉県川口市差間川口自然公園　2014 年 4 月 6 日　♂♀　市川武明採集・新井浩司同定

（新海　明・谷川明男集約）

ギャラリー

なぞなぞの答えはコケオニグモ

コケオニグモの学名は *Araneus seminiger* アラネウス・セミニゲル（セミ逃げる）.

撮影・解説：須黒達巳

遊絲原稿送付先

〒192-0352　八王子市大塚 274-29-603

新海　明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j. asahi-net. or. jp（谷川明男）まで

発行は，年 2 回（5 月，11 月）の予定．締切は発行月の前月末日です.

日本蜘蛛学会

homepage：http://www.arachnology.jp/

入退会は

庶務幹事

中田兼介

〒605-8501　京都市東山区今熊野北日吉町 35　京都女子大学

E-mail: nakatake@kyoto-wu.ac.jp

会費の問い合せ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒272-0827　千葉県市川市国府台 5-26-16-206

E-mail：kiyoko_kato@tce.ac.jp

年会費　正会員 7000 円（学生は 5000 円）

郵便振替口座 00970-3-46745

日本蜘蛛学会

遊絲　　第 36 号

2015 年 6 月 14 日発行

編集者　新海　明，谷川明男，池田博明

発行者　日本蜘蛛学会　会長　宮下　直